

映画 の 教室 2010



イワン雷帝

2010年 5月7日金 - 5月23日日

※金曜日・土曜日・日曜日の上映となります。

東京国立近代美術館フィルムセンター 小ホール(地下1階)

開映後の入場はできません。

定員=151名(各回入替制)

発券=地下1階受付

料金=大学・高校生300円

一般500円/シニア300円/小・中学生100円/

障害者(付添者は原則1名まで)、キャンパスメンバーズは無料

- ・観覧券は当日・当該回のみ有効です。
- ・発券・開場は開映の30分前から行い、定員に達し次第締切ります。
- ・学生、シニア(65歳以上)、障害者、キャンパスメンバーズの方は、証明できるものをご提示ください。
- ・発券は各回1名につき1枚のみです。

東京国立近代美術館フィルムセンター
National Film Center
The National Museum of Modern Art, Tokyo

N	京	橋
F	映	画
C	小	劇
小ホール	場	
KYOBASHI-ZA		No.18

小ホール 上映作品

映画の教室2010
Film Class of 2010

映画史を飾る古典的な作品をフィルム上映で鑑賞する機会が減少している中、フィルムセンターは、新たに映画芸術に触れようとする方々を主なターゲットとして、所蔵作品の中から映画を学ぶ上で重要な秀作を上映する「映画の教室」を今年も開催します。《京橋映画小劇場》第18回企画となるこの「映画の教室2010」では、外国映画6本、日本映画3本の計9作品を上映いたします。皆様のご来場をお待ち申し上げます。

- 監=監督 ○原=原作・原案 ◎脚=脚本・脚色 ㊟=撮影
- ㊤=美術 ㊦=音楽 ㊧=出演
- 特集には不完全なプリントが含まれていることがあります。
- 記載した上映分数は、当日のものと多少異なることがあります。

1 5/8(土)0:00pm 5/16(日)3:00pm

国民の創生 (168分・18fps・35mm・染色・無声) THE BIRTH OF A NATION

D・W・グリフィスがクロース・アップやクロス・カッティングといった基本的な映画話法を確立し、映画の新時代を築いた作品。また興行的に空前の大成功を取めた点でも、伝説的な巨作として世界映画史の中に位置づけられている。アメリカ南北戦争の惨劇とその終焉が、二組の男女の大恋愛とともに描かれている。

'15(アメリカ)㊟脚デヴィッド・W・グリフィス㊟トーマス・ディクソン㊟フランク・E・ウッズ㊟G・W・ピッツァー㊟リアン・ギッシュ、メイ・マーシュ、ヘンリ・B・ウォルソール、ミリアム・クーパー、メアリ・オルデン、ラルフ・ルイス、ジョージ・シーグマン、ウォルター・ロング

2 5/8(土)3:30pm 5/16(日)0:00pm

狂った一頁

(77分・18fps・35mm・白黒・無声版)

巨匠・衣笠貞之助が、文壇で「新感覚派」として活動していた横光利一や川端康成らとともに取り組んだ前衛映画。斬新な画面構成、技法が導入された点のみならず、インタータイトルがない点や、洋画専門の映画館で上映された点でも当時の日本映画とは一線を画した。

'26(新感覚派映画連盟=ナショナルアートフィルム社)㊟衣笠貞之助㊟川端康成㊟杉山公平㊟林華作、尾崎千葉㊟井上正夫、中川芳江、飯島綾子、根本弘、関操、南栄子、高勢実、高松恭助、坪井哲

3 5/9(日)0:00pm 5/15(土)3:00pm

アッシャー家の末裔

(56分・20fps・35mm・白黒・無声)

LA CHUTE DE LA MAISON USHER

エドガー・アラン・ポーによる複数の小説を下敷きに作られた「フランス印象派映画」の代表的作品。監督のジャン・エプスタンは、映画批評の大家ルイ・デリュックが唱えた「フォトジェニー」論に共鳴し、自らも独自の映画論を展開するが、デリュックの影響は本作にも見ることができると。

'28(フランス)㊟脚ジャン・エプスタン㊟エドガー・アラン・ポー㊟ジョルジュ・リュカス、ジャン・リュカス㊟ビエール・ケフェル㊟ジャン・ビュクール、マルグリット・ガンス、シャルル・ラミー

4 5/9(日)3:00pm 5/21(金)2:00pm

マダムと女房 (56分・35mm・白黒)

様々な困難を乗り越え、日本映画の発声化に決定的な役割を果たした松竹初のトーキー作品。五所監督は移動撮影やカットなどに様々な工夫を凝らして、新たな映画システムに挑んだ。仕事になかなか集中できない劇作家の芦野(渡辺)が、騒がしい隣家を訪ね、美人のマダムにたやすく丸め込まれるという夕夕バタ喜劇。

'31(松竹蒲田)㊟五所平之助㊟北村小松㊟水谷至宏㊟脇田世根一㊟高階哲夫、島田晴蒼㊟渡辺篤、田中絹代、市村美津子、伊達蓮子、横尾泥海男、吉谷久雄、月田一郎、日守新一、小林十九二、関時男、坂本武、井上雪子

5 5/7(金)2:00pm 5/22(土)3:00pm

一人息子 (82分・35mm・白黒)

将来の希望を胸に上京した息子と、彼に一生懸命仕送りする母が味わう人生の挫折をテーマにしつつ、東京という近代的な都市空間を浮き彫りにした作品。国産トーキーの出現から5年が経ち、小津安二郎がようやく手がけた初のトーキー映画で、無声映画期の小津スタイルも指摘される過渡期的作品。

'36(松竹大船)㊟小津安二郎㊟ゼームス・植田忠雄、荒田正男㊟杉本正次郎㊟浜田辰雄㊟伊藤宜二㊟飯田蝶子、日守新一、葉山正雄、坪内美子、吉川満子、笠智衆、浪花友子、爆弾小僧、突貫小僧、高松栄子、加藤清一、小島和子、青野清

6 5/14(金)2:00pm 5/23(日)0:00pm

イワン雷帝 第1部 (99分・35mm・白黒)

ИВАН ГРОЗНЫЙ(1-Я СЕРИЯ)

世界映画史上の巨人セルゲイ・エイゼンシュテインが手がけた史劇の超大作。初代皇帝(ツァーリ)としてロシア帝国の強大化に尽力したイワン4世(雷帝)を題材とし、第1部では雷帝が封建主義のロシアを中央集権国家にまとめ上げるまでを描いている。戦いを逃れて疎開先のアルマ・アタ(現カザフスタン)で撮影された。

'44(ソ連)㊟脚セルゲイ・エイゼンシュテイン㊟エドゥアルド・ティッセ、アンドレイ・モスクヴィン㊟ヨシフ・シュビネリ㊟セルゲイ・プロコフィエフ㊟ニコライ・チェルカソフ、リュドミーラ・ツェリコフスカヤ、セラフィマ・ビルマン、パーヴェル・カードニコフ、ミハイル・ジャロフ、アングロシー・プーチマ、ミハイル・クズネツォフ、ミハイル・ナズワノフ、アンドレイ・アブリコソフ、マクシム・ミハイロフ、フセヴォド・ブドフキン、アレクサンドル・ムゲプロフ

7 5/14(金)6:00pm 5/23(日)3:00pm

イワン雷帝 第2部 (85分・35mm・パートカラー)

ИВАН ГРОЗНЫЙ(2-Я СЕРИЯ)

モスクワで完成された第2部では、権謀術数の渦巻く雷帝と貴族たちとの暗闘が描かれる。独裁者の孤独を描く間接的なスターリン批判の作品とされ、彼が死去するまで公開されず、製作中であった第3部の素材も処分された。最後のカラー部分はエイゼンシュテイン唯一のカラー映像で、観る者を圧倒せしめばかりの色彩感覚がラストを彩っている。

'45(ソ連)㊟脚セルゲイ・エイゼンシュテイン㊟エドゥアルド・ティッセ、アンドレイ・モスクヴィン㊟ヨシフ・シュビネリ㊟セルゲイ・プロコフィエフ㊟ニコライ・チェルカソフ、リュドミーラ・ツェリコフスカヤ、セラフィマ・ビルマン、パーヴェル・カードニコフ、ミハイル・ジャロフ、アングロシー・プーチマ、ミハイル・クズネツォフ、ミハイル・ナズワノフ、アンドレイ・アブリコソフ、アレクサンドル・ムゲプロフ、フセヴォド・ブドフキン

8 5/15(土)0:00pm 5/21(金)6:00pm

たそがれの女心 (99分・35mm・白黒)

MADAME DE...

夫からもらったイヤリングを内緒で売り払った貴婦人。それはやがて夫の情婦へ、貴婦人を想う男爵へと持ち主が変わってゆく。女性心理の巧みな描写で後々高く評価されるマックス・オフェルス監督は、本作でも流麗なカメラワークによって恋のデカダンスを優雅かつ華やかに描いている。

'53(フランス=イタリア)㊟脚マックス・オフェルス㊟ルイス・ド・ヴィルモラン㊟マルセル・アシャル、アネット・ワドマン㊟クリスチャン・マトラス㊟ジャン・ド・ボンヌ㊟ジョルジュ・ヴァン・パリス、オスカー・シュトラウス㊟ダニエル・リリュ、シャルル・ボワイエ、ヴィットリオ・デ・シーカ、ジャン・ド・ビュクール

9 5/7(金)6:00pm 5/22(土)0:00pm

いとこ同志 (109分・35mm・白黒)

LES COUSINS

田舎から出てきたばかりの純情青年シャルル(プラン)と、都会的なブレイ・ボーイのポール(プリアリ)が従兄として同居するアパートに、ポールの恋人(メニエル)がやってくる。クロード・シャロルは、この長篇第2作で1959年ベルリン国際映画祭金熊賞を受賞し、ヌーヴェル・ヴァーグの勝利を強く印象付けた。

'59(フランス)㊟脚クロード・シャロル㊟アンリ・ドカエ㊟ジャック・ソルニエ、ベルナルド・エヴァン㊟ポール・ミスラキ㊟ジュール・プラン、ジャン・クロード・プリアリ、ジュリエット・メニエル、クロード・セルヴァル、ギイドコンブル

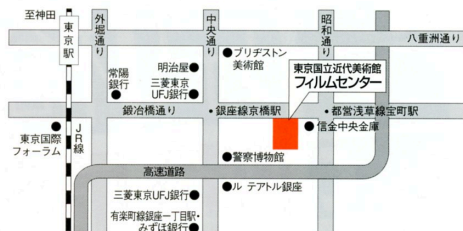
●《京橋映画小劇場》とは

平成18(2006)年度よりフィルムセンターは、これまで教育機関のための特別映写や一部の共催事業の会場として使用されてきた小ホールを、《京橋映画小劇場》(KYOBASHI-ZA)の名のもと、年に数回、フィルムセンターの主催上映企画にも利用し、さらなる上映活動の拡充を図っています。

フィルムセンター所蔵作品の公開を中心に、外部団体との共催企画も引き続き模索しつつ、多彩な上映企画の実現を目指します。大ホール・展示室企画ともども、皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

	金曜日	土曜日	日曜日
5月	2:00pm 5 一人息子	0:00pm 1 国民の創生	0:00pm 3 アッシャー家の末裔
	6:00pm 9 いとこ同志	3:30pm 2 狂った一頁	3:00pm 4 マダムと女房
5月	2:00pm 6 イワン雷帝 第1部	0:00pm 8 たそがれの女心	0:00pm 2 狂った一頁
	6:00pm 7 イワン雷帝 第2部	3:00pm 3 アッシャー家の末裔	3:00pm 1 国民の創生
5月	2:00pm 4 マダムと女房	0:00pm 9 いとこ同志	0:00pm 6 イワン雷帝 第1部
	6:00pm 8 たそがれの女心	3:00pm 5 一人息子	3:00pm 7 イワン雷帝 第2部

■作品により開映時間が異なりますのでご注意ください。



フィルムセンター 〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6

▼交通:

- 東京外口銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
- 都営地下鉄丸の内線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
- 東京外口有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分
- JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ: ハローダイヤル03-5777-8600

- NFCホームページ:
<http://www.momat.go.jp/>
- NFC携帯電話ウェブサイト:
<http://www.momat.go.jp/nfc/k/>

